

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム西大寺あゆみホーム
日付	平成16年11月9日
<b>評価機関名</b>	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	特別養護老人ホーム等での痴呆性高齢者介護歴 9年 病院での相談援助業務歴 30年、家族介護歴 13年
<a href="#">自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）</a>	
<a href="#">評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）</a>	
<b>事業者のコメントを見る</b> （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して（特に良いと思われる点など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR駅が近くにあり、商店や医療機関に恵まれている。伝統的な町並みの中で、酒蔵屋敷が見えたり、少し歩けば、川沿いの土手や、神社にも近く、町内のボランティアさんも、気軽にホームに入りやすいなど、地域の中に溶け込んで生活できている良さを感じました。</li> <li>・建物の構造は、玄関や駐車場も余裕がある広さであり、スロープが設けられていました。2階建のユニットとなっていて、全てバリアフリーで、エレベーターが面会者にも利用しやすい場所に設置されていました。</li> <li>・ホーム内は、全体に木目調で、転倒防止のための手摺が各所に設けられていました。リビング、台所、廊下も広く、くつろぎスペースも和風、洋風と2ヶ所設けられていました。</li> <li>・入居者が、どの人もリラックスした表情をして、生き生きと顔を輝かせる人も有り、個別にさりげないケアがなされていることを実感できました。</li> <li>・何よりも、ホーム運営のために、事業主、管理者、職員が、自由に意見交換できる場を定期的に設け、共に、「家族ならどうするか」を意識した視点を持ち、前向きに課題意識を持っている姿勢を感じられました。</li> <li>・苦情相談の解決に前向きで、家族会を設け、地域参加にも積極的でした。</li> <li>・わかりやすく、見やすい記録に取り組み、全てにわたり家族への記録開示を当初より実施できていました。</li> <li>・職員全体としてケアの質の向上を目指す姿勢が感じられました。</li> <li>・入居者と職員の間に、安心と信頼の関係が見られ、家庭そのもののような雰囲気を感じられました。</li> </ul>
特に改善の余地があると思われる点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能的によく検討された建物の構造ですが、車椅子利用の方には、浴室前の脱衣所が狭くなっており、現在、広くするための工夫が検討されています。また、玄関前に3段の階段があります。転倒防止のために、手摺の設置が望ましいのではないかと感じました。</li> <li>・質の良いケアを提供しているグループホームですが、これから利用したいと思っている家族や居宅支援事業者などへの情報提供が少ないのではないかと感じます。ホームページを開設されていますが、外部評価が公開される「WAMNET（ワムネット）」とリンクを設定するなど、多くの方が利用できるような情報提供が必要と思われます。</li> </ul>

### 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ・「いつまでも笑顔で、その人らしく」をホームの目標にしています。 ・事業主は、ホーム設立にあたり、各ホームを見学する中で、「自分の親への思い」につながるホーム実現のために「家族ならどうするか」を意識して管理者、スタッフ共に、よく話合うことを大切にホーム運営を目指しています。 ・入居者が、これまでの人生の中で頑張ってきた部分を見つけ出し、男性らしく、女性らしくという枠を越えて、その人らしさを引き出し、生活していくことに重点を置くとともに、各人の得意分野を發揮できる場面を作っています。また、押しつけないケアを目指し、温かい声かけ、共にすること、さりげないサポートを目指しています。 ・地域の中で住民として生活していることを意識し、町内の行事にも積極的に参加しています。そして、家族との絆を大切に、気軽に入れるホームを目指し、昼間、玄関をオープンにしています。コミュニケーションを大切に、家族との交流に家族会を設け、インターネットの活用にも力を入れています。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 入居者のベース、性格、体調に合わせて、生活の流れを見守り、押し付けのないケアを目指しています。居間には大きなテーブル2つと、くつろぎスペースも2ヶ所あります。各人が自由に動き、位置を変えたり、ソファにゆったり坐ったり、畳コーナーで洗濯物を広げてたたんだり、スタッフの見えるところで就寝したい人には畳コーナーに布団を運んだり、入居者のベースに合わせたケアができています。テレビの放映、音量、音楽の流れる曲の選定に入居者の希望を取り入れたりしていました。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物への支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か ・入所相談・インターク・アセスメントを通じ、個人の情報を集め、職員がその人らしさを理解するように努めています。それに基づいて、入居者の出来ること、音楽や踊りの好きな人、習字の得意な人、編物や小物作りの好きな人、剣道をしたい人、魚料理の出来る人等、各人の得意分野を發揮できる場面を作るよう支援しています。 ・居室のドアがきちんと閉められていて、一人ひとりのプライバシーが守られています。入室の際には、出来るだけ同意を得て入室しています。1階の部屋での更衣の際には、必ず外に面した窓のカーテンを開けてケアしています。 ・話しかけには、いつも、丁寧語、尊敬語を用いていますが、記録の書き方については、どうすれば良いのか、勉強会や研修を考えています。 ・家族に対し記録物を開示していますが、相談が始まった時期の困った状況については、別に保管して、プライバシーを守っています。		

### 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か ・「ヒヤリ・ハット」の様なシートを作り、事故や問題発生の前に、どうすれば良いのか、日頃より、考えていくことを目標にして、入居者のこと、職員のこと、同じ事柄と考え、各人の「困っていることの原因を探そう」と常に話合っています。また、意欲的に、あれもしたい、これもしたいと、前向きに意見を取り入れ、取り組んでいくことに努力しています。経験の浅い職員には、管理者が場面場面を逃がさないで、介護技術・接遇技術など説明をしながら、現場での研修に努めています。		